

3年●組 学級活動学習指導案

授業者 ●● ●●

1 取り上げる人権課題 「障がいのある人」

2 取り上げた人権課題の背景と現状

障害者基本法や障害者差別解消法などによる法整備や、「障害者の日」から「障害者週間」の拡大による共生社会の理念の普及などにより、社会の全ての人々が障がいのある人について十分に理解し、必要な配慮をしていくことが求められている。その一方で、車椅子での乗車やアパートへの入居を拒否されたり、憐れんだ目で見られたりするなど、障がいのある人に対する理解や配慮はいまだ十分とはいえない。こうした偏見や差別は、「障がいのある人は何もできない。」「障がいがあるからかわいそう。」といった決め付けた見方からくるものであると考えられる。障がいのある人の人権を守るためには、固定観念を払拭し、障がいのある人の人権について正しく知ることが大切であると考えられる。

3 児童の実態

障がいのある人に対する差別を生み出す上記のような意識を視点として、児童の日常の様子を観察したところ、「きっと〇〇さんは△△ができないから手伝ってあげよう。」などと、仲間に対して決め付けた見方をしていることが分かった。そこで、義足の人について、どのような意識をもっているのか、実態を把握するためにアンケート調査を行った。

【アンケート調査等からみた本学級の実態】

(児童数：29人)

＜分析の観点＞	概ね思う
義足の人、できないことがたくさんありそうだ。	22人
義足の人、できないことがたくさんありそうで、かわいそうだ。	28人

本時では、「義足だからかわいそう」と決め付けている見方が自分自身にもあることに気付き、健常者と同様に、苦手なことは助け合い、できることは認め合っていく態度を育みたい。

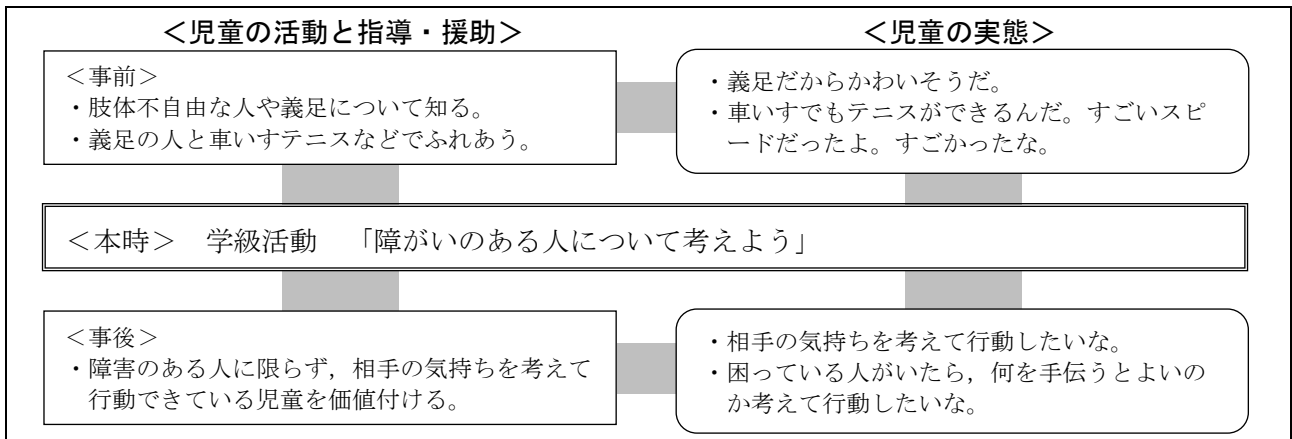
4 人権教育の育てたい3つの力の明確化

自己 啓発力	義足で生活している人について考える活動を通して、義足の人に対する決め付けた見方があることに気付き、その人のことを正しく理解して、相手の立場に立って物事を考えようとする力
-----------	--

【指導改善の手立て】

- ・学習活動2で、義足で生活する人の思いを知り、「義足だからかわいそう」「義足だからできないことがたくさんありそう」という決め付けた見方が義足の人を傷付けていることに気付き、相手を正しく理解し、相手の立場に立って物事を考えられるようにする。
- ・義足で生活する人の思いを聞いて相手を正しく理解することが大事であるということに気付き、学習活動3では、他に不自由がある人や健常者に対してもどう接していくとよいのかを考え、日常生活に生かせるようにする。

5 事前・本時・事後の指導構想



6 本時の目標

義足で生活している人に対する差別や生活について考える活動を通して、「できない」「かわいそう」という決め付けた見方が自分にもあることに気づき、体に不自由がある人はできないことが少し多いだけということを理解し、相手の立場に立って接しようとする態度を育てる。

7 本時の展開

過程	主な学習活動	見届ける視点(◇)と指導・援助
つかむ	<p>1 義足で生活している A さんの紹介を受け、A さんの生活から、義足で生活している人への自分の見方を考え、課題をつかむ。</p> <p><義足で生活する A さん> 車いすテニスを週に6日、4時間練習しています。今は、東京パラリンピックを目指して練習しています。休みの日は買い物をしたり映画を観たりして過ごしています。義足をしていることで、膝が曲げられないからバスや飛行機の座席がとても狭く感じたり、長時間歩いていると義足と肌が擦れて痛んだりもします。また、鉄でできている義足で海やプールに入るとさびてしまうので入れません。泳ぐことが好きな自分にとっては残念でなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休みの日に映画を観ているんだ。僕たちと同じことをしているんだな。 ・東京パラリンピックを目指しているのはすごいな。 ・Aさんは膝を曲げられないから大変そうだな。 ・義足だと何かと不便そうだからかわいそうだな。 <p>体に不自由のある人とどのように接していくとよいのだろう。</p>	<p>◇義足での生活に対して、自分なりの感想をもっているか。(発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大変そうだな」「かわいそうだな」という発言から課題につなげる。 ・課題意識をもつことができるように、どう接していくとよいのかを子供に問いかける。 <p>◇「大変そうだな」「かわいそうだな」という見方が差別につながっているということに気付いているか。</p> <p>(つぶやき・発言内容)</p>
学び合う・確かにする	<p>2 A さんの思いを聞いて、決め付けた見方が義足の人を傷付けているということに気づき、体に不自由のある人とどのように接していくとよいのか考える。</p> <p><A さんの思い> 昔、私が〇〇しているときに小さな子が私の足を見て「見て～！」と指をさしながら言いました。そうしたら、お母さんは大慌てで「ダメよ！失礼でしょ！」と言いました。そして、子供に見せないようにして、私に「すいません…」とでも言いたいように申し訳なさそうに会釈してその場から立ち去っていきました。きっとそのお母さんは「義足だからかわいそう。義足のことには触れちゃいけない」という思いがあったのでしょうか。そのときは、私はとてもショックだったのを覚えています。義足での生活は、さっきも言いましたが確かに不便だと感じることはあります。でも私は私を「かわいそう」だと思ったことはありません。旅行にも行けます。テニスもできます。東京パラリンピックというとても大きな舞台も目指すこともできます。去年結婚もしたし、とても幸せな毎日を送ることができています。あなたにもできないことはありませんか？苦手だと思っていることはありませんか？私にもできないことや苦手なことがあるだけです。ただ、だから手伝ってほしいと思うことはあります。相手のことを正しく理解し、何を必要としているのかということを知るのが大事なことだと思います。障害があるうがなかるうが、相手のことを考えられるといいですね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義足で生活している人でも、できることはたくさんあるんだ。自分たちにも苦手なことがあるし、義足だから「かわいそう」ではないんだな。その人を正しく理解することが大事なんだな。 ・義足で生活している人とか、体に不自由がない人とか関係なくどの人も同じ人間なんだ。相手のことを理解して、助け合うことが大事なんだな。 ・相手のことを考えて何を手伝うとよいのかを考えることが大事なんだ。 <p>3 義足以外で体に不自由がある人に対して、できることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目に不自由のある人は、どこに何があるか分からないと思う。困っているようだったら、声を掛けてあげたいな。 ・耳に不自由のある人は、口を大きく開けて、口の動きが分かりやすいようにできるといいんじゃないかな。 ・体に不自由のある人が、必要な手助けが何なのかをしっかりと理解して接していけるようにしたいな。それは相手が健常者でも同じだな。 	<p>【人権教育の観点】 義足で生活している人に対する決め付けた見方があることに気づき、その人のことを正しく理解して、相手の立場に立って物事を考えようとする。(自己啓発力)</p> <p><そのための手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・義足で生活する人の思いを知り、「かわいそう」という決め付けた見方が義足の人を傷付けていることに気づき、相手を正しく理解し、相手の立場に立って物事を考えられるようにする。 ・義足で生活している人の思いを生かして、他に不自由がある人や健常者に対してはどう接していくとよいのかを考え、日常生活に生かせるようにする。
できる		<p>【評価規準】 ◇決め付けた見方が差別を生むことに気づき、相手の立場に立って接し方を考えることができる。(記述内容)</p>